



1人は万人のために 万人は1人のために

(一社)佐賀県労働者福祉協議会 佐賀市神野東四丁目7番3号 TEL 0952(32)1243
ホームページアドレス: http://saga.rofuku.net/

第567号

発行日 毎月20日
定価一部 15円※会員の購読料は
会員の中に含む発行人 青柳 直
編集人 江頭 一哉

中央労福協 第63回定期総会開催

11月22日(水)「東京 ホテルラングウッド」において、中央労福協第63回定期総会が開催されました。

役員12名、労働団体63名、事業団体23名、地方労福協83名の181名(委任状39)の参加のもとで、吉田副会長の開会の挨拶で始まりました。

議長に富中紅氏(全労済常務執行役員)・相馬寛人氏(青森県労福協事務局長)を選出し議事が進められました。

主催者を代表し神津会長より『労福協の総会は2年に一度の開催であり、この2年間の活動を振り返り、そして向こう2年間の活動方針を議論いただくこととなるが、私なりに全体を総括し申し述べたい。

「協同事業の社会的価値と役割の発揮」について、協同組合みずから社会的価値と力量を高めていくことが必要である。労働組合と協同組合との関係も、こうした協同組合の役割や意義への理解を深めつつ、ともに運動する主体として、より強固なものにしていく必要がある。

「奨学金制度改革の取り組み」については、約304万筆の署名に寄せられた切実の声やアピール賛同の呼びかけが国民の共感を呼び、大きな世論となって政府や国会を動かした結果、今年の3月に日本学生支援機構法が改正され初めて大学生等を対象とした給付型奨学金制度が実現した。対象人数も金額も不十分であるが、これまでの高い壁に風穴を開けたことは、運動の成果として全体で共有したい。今後の取組みとして、給付型奨学金制度の拡充・貸与型については有利子から無利子への流れ・教育の無償化等、さらに大きな運動としていくことを全体で確認したい。

「貧困・格差の是正と困窮者支援」について、子どもや若者から壮年・高齢者に至るまで、あらゆる世代・層で格差・貧困が拡大している。様々な困難を抱えた人たちに寄り添いながら、縦割りではなく包括的に支援する生活困窮者自立支援制度は大きな意義を持っている。この生活困窮者自立支援制度が施行3年後の見直しを迎え、厚生労働省でも検討作業が行われている。制度のさらなる充実強化を図るために就労準備支援や家計相談支援の必須化や制度を支える相談員・支援員の継続雇用と養成、さらに委託事業を安定的に運用できるような適正な評価の仕組みを求めていきたい。』との挨拶がありました。

その後、5名の来賓より連帯の挨拶を受け、議事の審議に入りました。

議事については、2016~17年度活動報告、2017年度会計決算報告及び監査報告、2018~19年度活動方針案、2018年度予算案、役員改選等、全ての議案が全会一致で承認され、労働者福祉運動の強化・拡大が確認されました。



小城多久地区労福協 活動の報告について

小城多久地区労福協は、6月7日(水)「小城多久地区労福協委員会(総会)」を開催し、1年間の事業計画などを確認しました。

地区的取組として、11月25日(土)にガーデニング教室(多久市)を開催しました。28名の参加があり、参加者は講師の説明を聞いたあと、配置等を考えて思い思いに寄せ植えを作成しました。また、9月23日(土)にはカラーリング大会を開催し、老若男女45名(15チーム)の参加があり大変盛り上がりいました。12月9日(土)には初の試みである『いごてだま大会』を開催します。こうしたイベントを通して会員の親睦を深め、労福協活動について頑張っていきたいと思います。



寄せ植えの配置を真剣に考える参加者 今回参加者の作品

違ひ馬頭

歴史を少し振り返ってみたい。1997年11月、北海道拓殖銀行と山一証券が相次いで破たんしてから20年「失われた20年」が経過した。誰もがつぶれないと信じていた大手金融機関の破たんは、国民に大きな衝撃を与えた。日本が変容する大きなターニングポイントになった。そのきっかけは、12年前の1985年のプラザ合意によって急激な円高ドル安となり、その後バブルが生成され1989年12月には株価が39,000円を超えた。その後、バブルは崩壊し長引くデフレとなっていました。さらに、大きな影響を与えたのが97年の金融ビッグバン。連結会計や時価会計の導入が求められ、さらに成果・能力主義という米国流の雇用制度が導入され、年功序列や終身雇用という日本型社会は崩れヒト・モノ・カネが自由化され、グローバル化が一気に進み、グローバル化の恩恵を享受する一部の恵まれた投資家や経営者などの層と、そうでない多数の庶民とに社会が分断されてきた。一方、企業の内部留保はこの20年間で4倍の400兆円を

超えている。しかし、労働者の実質賃金は下落している。世帯の平均所得は、ピーク時の1994年の約664万円に比べ2016年は約545万円と約18%下がっている。結果として、今日、日本では超高齢化社会となり、超少子高齢化と単身世帯増という社会構造の変化に直面し、格差と貧困が拡大し続けている。特に、生産年齢人口(15歳~64歳、昭和60年、1985年)当時は8,254万人、平成27年(2015年)では7,725万人と30年で529万人減少、非正規労働者は雇用労働者全体の4割を占め平均賃金は正規雇用の6割といわれている。このままでは、少子化に歯止めはかからず地方は荒廃し過疎化も進み日本社会の風景が一変する時代を迎えるようしている。そして今、大手優良企業の不祥事が相次いで発覚しており大変残念なことである。これも、グローバル経済、市場万能主義のツケだと思う。

日本人が失ったものは、日本人自身の力で取り戻さなければ、日本に明るい未来はやってこない。

(S-A)

労福協 第20回 チャリティゴルフコンペ開催

11月27日(月)天山カントリークラブにおいて、労福協第20回チャリティゴルフコンペを96名の参加のもとで開催しました。当時は11月下旬とは思えないほどの絶好のゴルフ日和となり、日頃の実力を十分に発揮された方、また、実力を出し惜しみされた方など皆さんそれぞれに楽しいラウンドを満喫されました。ご協力いただきましたチャリティ募金(98,000円)については理事会等で協議し寄贈先を決定いたします。

ご参加の皆様ご協力ありがとうございました。



労福協ライフプランセミナーを開催

12月2日(土)佐賀市「ガーデンテラス佐賀ホテル&マリトピア」において標記セミナーを開催し、68名の方にご参加いただきました。

労福協では労働者福祉事業の一環として、労働者の生活をサポートし、生活設計を援助していくために、労福協セミナーとして毎年開催しています。労働者にとって、生涯にわたる暮らしのなかで、在職中におけるライフプランや一大転換期である「退職期」において、どのように設計図を描くのかは極めて重要な課題です。

昨年より若い人から退職を控えた人までの幅広い年齢を対象とし、第1部では「60からの『年金・雇用保険・健康保険』について」をテーマに、特定社会保険労務士の植松理加氏により、また、第2部では「人生の4大支出に賢く備えるポイントとは?」をテーマに、ファイナンシャルプランナーの瀬戸家みのり氏より講演をいただきました。

専門的な立場からライフプランの基本となる「年金制度のはなし」「マネープランのポイント」について、貯蓄の方法や減らせる支出等、各支出の項目や各年代別の支出ポイントについて事例紹介を含め提案をいただきました。

講演終了後には専門家による個別相談会も対応いただきました。

尚、アンケートの結果でも、「役に立った」との回答が全体を占めました。

2017年度 労福協ファイナンスセミナー



2017年度 労働者福祉南部ブロック研究集会を開催

標記、研究集会を11月28日(火)～29日(水)、大分市「九州労働金庫大分支店5階会議室」において開催し119名(佐賀県より12名)の方に参加いただきました。

開催主旨は、労働者福祉運動の推進に当たり、研究・学習すると供に、共通認識に立つ場として、九州各県(沖縄県を含む)の労働団体、福祉事業団体を対象に毎年実施しています。



南部ブロック佐藤会長より主催者を代表し「生活困窮者や子供の貧困の現状を認識し、労福協として「分かち合える意識」を持って取り組まなければならない。その意味でも今回の研究集会の講演テーマを設定している。各講演より現状を受け止めていただき課題を明確にし改善に向けて行動に移していただきたい」との挨拶が述べられました。

研究集会は、「生活困窮者に対する伴走支援」・「生活困窮者支援と日本の福祉」・「子ども食堂の現状と課題」の講演3本と、「フードバンクおおいたの取り組み」・「ハイリスクなこどもたち」の報告2本の内容で開催され、子どもから高齢者に至る貧困の現状と課題点及び報告団体の取り組み事例等紹介されました。

講演や報告に対し、佐賀県労福協としてどんな関わりができるのか、県内の関係団体と協議を行い取り組み方法等、検討いたします。

労福協 第34回 文化講演会を開催

11月19日(日)佐賀市・ガーデンテラス佐賀ホテル&マリトピアにおいて、「労福協第34回文化講演会」を開催しました。講師にフリークリエーター(元NHKアナウンサー)の堀尾正明さんを招いて「地域活性化の決め手はこれだ!～ご近所の底力・取材活動から～」というテーマで講演をいただき、150名の方々にご聴講いただきました。

堀尾正明さんはNHKアナウンサー時代には「サンデースポーツ」「サタデースポーツ」のキャスター、「タジオパーク」から「難問解決!ご近所の底力」など数多くの人気番組を担当されました。

現在も「誰だって波瀾爆笑」への出演や各地で地域力・コミュニケーション力・スポーツジャーナリズムについて講演シンポジウム会等、大変多忙を極められています。

今回の話では、「振り込み詐欺」に関わる詐欺師の話題分析や、地域でのコミュニケーションが如何に大事か、また、地域活性化のヒントも数多くご提案をいただきました。80分間という長時間の設定でありましたが時間が感じさせない本当に素晴らしいお話を聴講されている方も大変満足頂いた講演会となりました。



佐賀大学にてマネートラブル防止講座を開催!

11月24日(金)佐賀大学において、「身近に潜むマネートラブル」と題してうきんによる講座が開催されました。

本講座は毎年、連合佐賀が佐賀大学から年15回の講義機会を受けており、その中の1コマとしてうきんから学生の間に学んでおかなければならぬお金の知識について講演が行われました。クレジットカード利用の落とし穴や奨学金返済に絡むトラブルについて講演を受けた学生からは「返済に厳しい決まりがあるとは知らなかった」「将来カードを利用する際は気をつけたい」と好評でした。

中学校・高校で学生向けの金融セミナーの講演要望等がございましたら、ご相談ください。



「子ども未来応援プロジェクト」基金が始動!

12月3日市民活動を行う5団体が主催する「子どもの居場所シンポジウム」が開かれた。子どもの自由な遊び場を提供する静岡県のNPO団体や滋賀県で子どものソーシャルワーカーセンターの代表の講演や分科会・シンポジウムが開かれた。目的は子どもの居場所づくりだが、多くの方から「子ども食堂」についての提言が行われ、ラストには佐賀未来創造基金が主体となって「子ども未来応援プロジェクト」基金が作られたとの報告。最近の「何でも相談」に離婚直後のシングルマザーからの相談がある。仕事が正社員であればいいが多くのパートタイム労働者だ。子どもの貧困率は50%を超えており、ここに私たちの役割があるのであれば、と気づかせるシンポジウムであった。

ライフサポートセンターは多種多様な相談を毎日10時～16時まで受けています。さらに毎月1回第3日曜日に弁護士による無料法律相談会を開催しています。

労働問題、相続、金銭トラブルなど困った時は一人で悩まずお気軽にご相談下さい。無料法律相談会の日程は下記のとおりです。事前の予約をお願いします。

☎ 0120-931-536

○無料法律相談会開催日程

第62回 2018年 1月21日(日) 午後1時～4時

第63回 2018年 2月18日(日) 午後1時～4時

※来年3月以降も開催します。

佐賀労済創立55周年記念公演を実施します

ふれあいミュージカル

夢とロマンの
ミュージカル・アドベンチャー

シンドバットの *Sindbad the Sailor*

大冒険

1,800名様
無料でご招待！

応募者多数の場合は
抽選となります

佐賀労済創立55周年を記念し、親子で楽しんでいただける「ふれあいミュージカル」を開催いたします。
全労済組合員であればどなたでも応募できます。今後、各協力団体様へ案内・応募チラシを配布いたします。
たくさんの皆さまの応募をお待ちしています。

●日 時 2018年1月15日(日)

開場 13:00 開演 13:30 (終演 15:00)

●公演会場 佐賀市文化会館 大ホール

●入 場 料 無 料

●募集人数 1,800名 (全席指定)

●募集締切 2018年2月28日(水)

●募集資格 全労済の組合員とその家族

●主 催 佐賀労済 ●共催 全労済佐賀推進本部

* 応募方法は、各協力団体へ配布いたします
応募チラシにてご応募ください。

主人公になつた気分で、
思いっきり楽しめる。
スケールいっぱいの感動舞台！

劇団ボプラ

POPLAR THEATER COMPANY

2幕14場

90分(休憩含む)

